

～今話題のシェアサイクルが青島にも登場！～

下関市総合政策部国際課
(青島市派遣職員)
和木田 真功

今回のテーマは、「シェアサイクル」です。現在、中国で市場を拡大しているシェアサイクルについてご紹介します。

1. 一番の魅力は「乗り捨ての自由化」

今中国で「公共自転車」というシェアサイクルが注目を集めています。日本でも一部地域でシェアサイクルの試用が行われているようですが、中国では今や急成長の産業となっています。その大きな理由の一つが「乗り捨ての自由化」です。一般的なシェアサイクルは決められた場所に自転車を返却しなければなりません。中国では基本的にどこに放置しても問題ありません。ですので、最近青島の路上では、ところどころに乗り捨てられた自転車を目にします。自転車にはGPSが内蔵されており、スマートフォンのアプリを利用すればどこに自転車があるかすぐに分かります。また、このGPSは窃盗防止にも一役かっています。

ひと昔前の中国は、自転車大国のイメージが強いです。経済成長に伴い、マイカー所有率は年々高まり、自転車に乗る人は少なくなってきました。また自転車の盗難が多く、一度盗られるとまず戻ってこないことも一つの理由とされていました。特に青島は坂道も多く、自転車に乗る人はあまり多くはありません。しかし、このレンタサイクルの導入以降、街中で自転車に乗る人をみかけることが多くなりました。



▲乗り捨てられた公共自転車

2. 激化するシェアサイクル業界への投資

現在、中国では3000万人以上がシェアサイクルを利用し、シェアサイクルを営む企業は20社を超え、これまで下火であった自転車業界に大きな経済効果をもたらしました。

現在、シェアサイクル業界は、シェア獲得を目指し各企業間で価格競争などが繰り広げられています。シェアサイクル界では「Mobike」と「ofo小黄車」が二大大手とされています。Mobikeは、2017年に入り、中国大手企業「テンセント」などから合計3億米ドルの資金調達を実現し、ofo小黄車も中国最大のライドシェアサービス会社「滴滴出行」などから、約4億米ドルの資金調達

を実現したと報道されました。

3. 使い方や料金などは

まずは専用アプリをダウンロードし、必要事項を入力し、保証金をデポジットする必要があります。その後は自転車に備え付けられたバーコードを読み取り、ロックを解除します。料金は各社毎に異なりますが、大体1元（約16円）／30分が相場です。青島では上記で紹介した、大手二社に加えて「酷騎單車」という企業の自転車をよく見かけます。「酷騎單車」は他社と比べ料金が安く0.3元（約5円）／30分であり、かつ最初の10回は無料で利用することができます。料金の決済はすべて電子マネーで行われ、現在、生活の中に電子マネーが普及したことも、シェアサイクル利用者が増加した要因の一つであるとされています。

暮らしの中で利便性が向上するのみならず、環境保護や健康維持にも大きな成果が期待できるシェアサイクル。今後中国では更に市場規模が拡大していきそうです。